



松蔭会 松蔭会同窓会だより

鹿児島県立志布志高等学校

鹿児島県立志布志中学校（現在の志布志高等学校）は、明治42年（1909）に、鹿児島県下6番目、大隅半島最初の旧制中学校として発足。これまで、約2万人の卒業生を世に送り出し、それぞれ各界で活躍されております。時代は、明治・大正・昭和・平成・令和と変遷しておりますが、先人の意志を受け継ぎ、本校が地域の財産として愛され、誇りに思われる学校となるように更なる飛躍を祈念しております。

松蔭会（志布志高校同窓会）だよりにつきましては、今回、リニューアルを行い希望される方に年に2回の発行でお届けしてまいりますので、ぜひお楽しみにお待ちください。

なお、新しい松蔭会だよりは、松蔭会ホームページでもご覧になれますので、会員の皆さんにPRください。

三、風吹きぬ
老松のとよもす下に
瞳あげて
見はるかす舟路の行手
黒潮は四海をめぐり
同胞に幸も豊けし
きはみなき生命の旅路
きはみなきまに帆あげむ

二、空晴れぬ
一碧くもりなき身に
技競ひ
頌ふるは力のいづみ
友垣に光は溢れ
みんなみの息吹きも薫る
ひたむきの若人の血を
ひたむきのまに歌はむ

一、人ありぬ
その上の大隅の地に
土拓き
学びせし文化の遺蹟
伝統を世々に伝へて
我が庭の集ひは成りぬ
新しき心の糧を
新しきまに加へむ

志布志高等学校 校歌

作詞 木佐貫 直人
作曲 武田 恵喜秀



□令和3年度総会が開催

令和3年8月7日に松蔭会総会が開催され、令和2年度の事業報告並びに決算について承認をうけました。また、令和3年度事業計画や予算についても、承認されました。令和3年度事業方針では、会員の親睦交流として、チャリティGG・チャリティゴルフ大会の開催が決定しましたので、各卒業年度代表者会を開催して準備を進めてまいります。



□慰霊祭を開催

総会当日は、松蔭会「英魂碑」慰霊祭の神事が執り行われました。今年は、これまで松蔭会の活動運営にご尽力いただきました原田實名誉会長様や川井田幸一様、他皆様のご逝去の訃報をお聞きしておりました。皆様と一緒にご冥福をお祈り申し上げ、追悼の意を表したいと思います。



□松蔭会「志(こころざし)の盾」引き継ぎ

今年の総会は、昭和56年卒の皆さんが準備をしていただきありがとうございました。総会では、当番期の交代式があり、昭和56年卒から昭和57年卒へ引き継がれました。昭和57年卒の皆さんは、令和4年8月6日開催予定の松蔭会総会及び懇親会の準備等の当番をお願いします。



□令和3年度役員体制

総会において令和3年度の役員体制が承認されました。今後2年間の任期となります。

名誉会長	一木 弘文	昭和31年卒
会長	樺山 弘昭	昭和53年卒
副会長	古垣 成子	昭和41年卒
	川畑 充子	昭和42年卒
	久徳 博文	昭和49年卒
	上原 登	昭和50年卒
	内村くみ子	昭和50年卒
	木村 裕子	昭和50年卒
	二見いすず	昭和50年卒
	武石 裕二	昭和52年卒
監事	若松 茂富	昭和54年卒
	上村 雅彦	昭和55年卒
	栗田 力	昭和37年卒
	坂元 健二	昭和51年卒



学校事務局

学校長	國生 勝海	令和2年度～
教頭	平田千代子	令和3年度～
事務長	池 珠美	令和3年度～
事務局	徳永 洋輔	令和2年度～
	立山 剛大	令和元年度～
	宮ノ下幸博	令和3年度～



令和3年度よろしくお祈いします。8月7日に1年振りとなる松蔭会総会を開催しました。今年の総会につきましては、コロナ禍の中で、懇親会を中止し、少し、縮小した形での開催となりましたが、こうして、会員が一同に会することが大事だと考えています。先輩の皆さん、そして、各期の皆さんのご意見をいただきながら、力をあわせて、母校の「志布志高校」そして、同窓会組織の「松蔭会」がますます発展してまいりますようにどうぞよろしくお祈いいたします。

ようこそ「松蔭会」のホームページへ

松蔭会のホームページを立ち上げました。母校の現在の様子や同窓会活動のご案内、また同窓生の交流の場として、お役にたつことを願っております。全国の皆さんからのご便りや写真をお待ちしています。

松蔭会ホームページ
<https://shouinkai.com>

松蔭会LINE(ライン)公式アカウント

携帯スマホに情報が送信されてくるLINE公式アカウントのサービスをはじめました。身近な情報を定期的に配信することで、会員から親しまれる松蔭会を目指します。QRコードを読み込んで「ともだち登録」お祈いします。



名誉会長 挨拶 令和2年10月投稿

昭和17年
旧志布志中学校卒業
原田 實



門 開校の昔を偲ばせる旧中学校の正門「追思の碑」は、開校時に現在の地に建てられたもので、大事にしたい財産である。また、この門は、これまでの母校の移り変わりを見守ってきました。本校と現在の香月小学校以南海岸までが旧中学校の敷地で、当時日本一の広さの学校であった。香月小学校と本校の境界付近に門があり、通用門と呼ばれ利用されていた。国道工事の際にもこの門が残った。1925年頃、「都城一志布志」間に、国鉄（現在のJR）が開通し、高校内を列車が走るようになった。当然踏切が必要となり、現在の南門がその位置であった。

香月小学校から稚児松までの間については、国道から南に行く道がないために、十年くらい前までは、本校の正門から通用門を通り自宅へ帰る人が多かったのが思い出される。現在、96歳になり、昔の風景を思い出しながらも、本校の発展を願うばかりである。

※原田實名誉会長は令和3年3月にご逝去されました。

名誉会長 挨拶 令和2年10月投稿

昭和31年卒業
一木 弘文



全国の同窓生のみなさま如何お過ごしでしょうか。秋の訪れもコロナ禍のせいで、今ひとつすっきりしないこの頃です。この度、新役員体制の中で、ホームページを立ち上げるとのこと、おめでとうございます。前会長ということで、原稿の依頼がありましたので、筆をとった次第であります。松蔭会との関わりは、校長として、母校に勤務させてもらった平成7年4月に始まります。その後、名誉会長の原田實先生の後を引き継いで、微力ながら会長を勤めさせていただきました。その間、全国の同窓生の皆様には、ご協力を頂きありがとうございます。厚くお礼申し上げます。

さて、私自身の高校時代を思い出してみます。まず、校舎は旧制中学校の1階平屋建てでしたが、当時では珍しく雨天体操場（今の体育館）がありました。

校庭は、「汀に続く庭のうち」と旧制中学校の校歌にありますように日本一広く、校庭の中を志布志線と古江線が通っていました。昼食時間に

なれば、松の木陰を求め、線路脇に三々五々集まって食事をとったものです。

部活も盛んで、私は柔道部に所属、レギュラーではありませんでしたが卒業まで続けました。お陰で鹿児島（当時は大都会？）の県大会に連れて行ってもらいました。

また、3校模試（高山高校・鹿屋高校・志布志高校）が行われ、勉強にも力を入れて指導してもらいました。同級生は、有名大学に多数進学しました。同窓生のみなさん、先人の努力によって大隅半島最初に創設された志布志高校が、今後とも地域の財産として益々発展するように応援してまいりましょう。

第1回

リレー随筆

昭和42年卒業
宮ヶ原 修平



全国の松蔭会会員の皆様、如何お過ごしでしょうか？令和二年はコロナに明け、コロナに暮れようとしています。

私は本年八月まで縁あって松蔭会本部で副会長の一人として微力ながらお手伝いをさせて頂いておりました宮ヶ原と申します。宜しくお願ひ致します。この度、松蔭会に念願のホームページが開設されました、誠におめでとうございます。ホームページ開設については、数年前より取り沙汰されていましたが、何分にもその方面に詳しい人材が不在でした。又、コロナ禍でほとんどの行事や会合も中止・縮小が続く中、恒例の松蔭会総会（八月第一土曜日）も中止せざるを得ず、やむなく役員会を総会代替として開催し、役員改選で新会長に榊山弘昭さんを選出して頂きました。このことにより、役員若返りが図られました。新会長は就任早々積極的に取り組んで下さり、十一月にはホームページの準備が整いました。このことによって、これからは全国どこからでも松蔭会にアクセスが出来ることで情報共有が進み松蔭会の活動が活発になることが大いに期待されます。又、IT環境の無い方や苦手な方には紙媒体の「便り」（有料制）を残す取り組みをされるということです。

今後は松蔭会ホームページと志布志高校ホームページをリンクさせることで双方の情報をより検索しやすくなる事と思います。皆様にはこのホームページをご活用いただき、母校及び松蔭会へのさらなるご支援・ご指導を宜しくお願ひ致します。末尾になりましたが、昨年の母校百周年記念事業には多くの皆様方のご支援ご協力を頂き、お陰をもちまして無事終了出来ました。関係して頂きました全ての皆様へ実行委員の一員として、改めまして心より御礼申し上げます。有り難うございました。

第2回

リレー随筆

昭和41年卒業
古垣 成子



松蔭会の皆様、如何お過ごしでしょうか。平成23年より松蔭会本部で副会長の一人としてお手伝いさせていただいております古垣成子と申します。よろしくお願い致します。昭和38年4月から41年3月まで母校で楽しい青春の1ページを過ごした思い出を語りたいと思います。

まず、1年生の副担任は原田寛先生でした。お洒落でダジャレの好きな先生でした。今日はどんなネクタイ？毎日ネクタイが違うのです。女生徒は特に興味津々でした。又、数学の授業ではどんなダジャレがでてくるのかとても楽しい授業でした。そして先生のダジャレを聞きたくて昼休みに友人と職員室へ遊びに行った事。2年生は学業より部活動とダンスに興味を持ちました。夏休みの朝早い課外授業には参加せずテニスの練習だけ参加し、担任の先生に叱られた事。友人と昼休みに校舎の屋上でその頃流行していたツイストを練習した事。

修学旅行は関西関東への6泊7日。3泊はなんと夜行列車内で床に新聞紙を敷いて夜を明かした事。

何故か女生徒のみの修学旅行でした。

3年生はいよいよ進路を決める大事な学年。私にとって人生を大きく変えた学年でもありました。それは3年生の副担任が1年時と同じ原田寛先生でした。

進路を決める時の面接での先生の一言「これからの女性は何か手に職を持ち自立する事が人生を豊かにし大事である」と。

急遽進路を変え看護師への道を歩むことになりました。先生との素敵な出会いがなければ今の私は存在しないと思っています。

旧制志布志中からの建学の精神一貫して受け継がれている輝かしい伝統と歴史のある高校で学べた事をとても誇りに思っています。

志布志高校、最高!! 大好きです。

志布志高校同窓会松蔭会本部・各支部総会に参加し母校の為に絆を深めていきましょう。

追伸

原田寛先生が3月9日ご逝去されました。心よりお悔やみ申し上げます。
原田寛先生 ありがとうございます。

第3回

リレー随筆

昭和41年卒業
谷口 重美



私は、昭和38年3月松山中学校を卒業し、よく4月、志布志高校に入学し三年後卒業させていただきました。現在は、志布志市教育委員会学校教育課の会計年度任用職員として勤務しています。今日の私があるのは、何といても、多情多感の青春時代前期の3年間を歴史と伝統ある志布志高校で勉強させていただいたおかげと感謝しています。

私が、入学した頃は、日本が高度成長期に入る頃で、多くの同級生が集団就職したり就職進学したりしました。私は、中学3年の時の担任が本校の大先輩の一木法明先生で「谷口、おまえは普通高校である志布志高校に行ってみらんか」と進路指導していただき、父母も了解・納得しどうにか入学させていただいた次第です。勉強は元々あまり好きな方ではありませんでしたが、先生方の指導や同級生や先輩に刺激されて1年生の終わり頃から勉強に集中しだした記憶があります。

通学については、当時は、国鉄志布志線が健在で、SLディーゼルカーでの通学でした。朝の通学列車はいつも満員でほとんど立って約25分間大隅松山駅～志布志駅間を通学しました。雨の日や風の日もあり大変な時もありましたが、多くの先輩や同級生、後輩たちと和気藹々の楽しい通学でもありました。泰野から大隅松山駅まで約5キロ、自転車通学で、帰りはみんなで自転車競争をして帰ったのもよき思い出です。あの頃は自動車や単車などの交通車両が少なかったから事故を起こさなくてよかったと反省もしています。

約10年前、松山地区から松蔭会の副会長になるように推薦を受けて昨年まで及ばずながら務めさせていただきました。引き受ける時、高校時代お世話になった母校に少しでも恩返しができたらという思いがありました。

一昨年(令和元年、2019年11月9日)本校は創立110周年記念式典が盛大に挙行されました。私は、名前ばかりの実行委員であり協力はできませんでしたが一木弘文同窓会長や宮ヶ原修平会長代理を中心に、本校の校長、教頭先生をはじめ多くの職員、松蔭会員、PTAの方々が行委員長になり全員一体となり記念事業を実施して大成功裏に終わりました。

現在は、新型コロナの影響でほとんどの行事や大会が中止や延期されていることを思うと、110周年記念事業はいい時期に実施されて本当によかったと思っています。今後志布志高校の前途にもいろいろな困難が押し寄せてくるかも知れませんが、創立以来この学舎で学ぶ生徒たちや親身になって指導いただいている先生方、その教育活動を支えて下さっている教育委員会やPTA、同窓会の皆さんで困難をきつと克服し益々発展していくことと信じています。



第1回 リレーインタビュー



昭和55年卒の上村雅彦さんです。

- Q 出身地、お名前、卒業年をお聞かせください？
 A 大崎中出身、上村雅彦、S55年卒です。
- Q 当時の卒業生は、何人くらいだったのでしょうか？
 A 8クラスあったので300名以上かと思います。
- Q 高校時代の思い出をお聞かせください。
 A 70周年で学食が出来て毎日行ってたと思います。バスケット部で朝から晩まで頑張っていました。
- Q 現在のお仕事は？
 A 若潮酒造株式会社で代表取締役になって5年目です。
- Q コロナ禍の中で、現在どのような状況でしょうか？
 A 焼酎なので飲食店さんとかが休業したりで売上は厳しいですが、皆様に美味しいと言って頂ける焼酎造りを心がけてます。
- Q PRがありましたらどうぞ？
 A 世界のスピリッツコンテストに出品したり、消毒用アルコールを造ったり、ジン造ったり、芋焼酎だけでなく新しいことに常にチャレンジしてる会社だと思えます。
- Q これからの目標がありましたら？
 A 郷土で愛されて53年目、「さつま若潮」を100年に向けて進化出来るように頑張ります。若潮って何か面白いよねって言われたいです。
- Q 人生訓やモットーがありましたら？
 A チャレンジ & 「なんくるないさー」の精神「袖振り合うも多生の縁」
- Q 現役高校生にメッセージがありましたら？
 A 人生で出会える人はそう多くないので、出会える人を大切に生きて欲しいです。自分にとってプラスになる人だけでなく嫌な人も大切なことを教えてくれます。1年後、10年後にプラスになるかもしれないです。



第2回 リレーインタビュー



昭和56年卒の益田幸太さんです。

- Q 出身地、お名前、卒業年をお聞かせください？
 A 志布志町出身。志布志中です。益田幸太（ますだこうた）昭和56年卒です。
- Q 当時の卒業生は、何人くらいだったのでしょうか？
 A 7クラスで304名でした。
- Q 高校時代の思い出をお聞かせください。
 A サッカーに明け暮れていました。県大会ベスト4までいきました。
- Q 現在のお仕事は？
 A 株式会社益田製麺の会長です。
- Q コロナ禍の中で、現在どのような状況でしょうか？
 A 巣ごもり需用で、フル生産の状態が続いています。エッセンシャルワーカー（人々の生活にとって必要不可欠な労働者）として、お客様に喜んでもらえるように精進していきたいと思えます。
- Q PRがありましたらどうぞ？
 A 現在、「志布志の夏そば」を販売中行政、生産者、地元飲食店等で協力して志布志を盛り上げています。
- Q これからの目標がありましたら？
 A 6月に若い社長に引継ぎました。今後は正業だけでなく、少しでも地域に役にたてるよう頑張ります。
- Q 人生訓やモットーがありましたら？
 A 「感謝」「素直」「心の下座」
- Q 現役高校生にメッセージがありましたら？
 A 勉強・スポーツに悔いのない時間（とき）を精一杯全力で行動されることを期待しています。夢や人生を謳歌してください。

■お便り紹介（第1回）

昭和二八年（高五回）卒 佐藤 通弘
（鹿児島市在住）



「校舎」、それは思い出の塊である

私が志布志高校に入学したのは、未だ大東亜戦争の敗戦が色濃く残る昭和二五年春。入学式には父からもらった軍服を着用、軍靴を履き、さながら士官学校に入学するような姿であった。食糧難はまだ続き、学校の制服も入手困難の時であったから、軍服姿であっても少しも恥ずかしいという気持ちは無かった。

旧正門を入ると左手に用務員室、その前には山から引いて、その落差を利用した水飲み場があった。さすがにこの水はうまかった。校舎は旧制志布志中学校の木造平屋の建物が、海岸方向へ三棟が並び、お互いに中央廊下で繋がっていた。

その中央廊下の先には、体育館兼講堂があって、入学式はそこで挙行された。また、入口の上部には、学校の教育理念を示す額が五枚掲げられており、旧中時代からの引継ぎかと思われるような古ぼけたものであった。

今の香月小学校の付近に六棟の寄宿舍が並んで建っており、大隅半島で唯一の県立中学校にふさわしく、各所から英才が集い、中学生生活を満喫していたことが伺えた。

有名な海老原画伯もこの寄宿舍で学生生活を送り、卒業していったと過日の新聞記事で読んだ。校庭は、周囲に、松の大木が繁り、校舎の脇を当時の国鉄志布志線と古江線が走り、校庭を汽車が横切って走っていると言われるくらい、広く且つ「学び舎」にふさわしい環境であった。今、家電量販店が立っているあたりの近くに池があり、昼食時には学友とその周りの木立の陰で弁当を開け、食後には寝転んで人生論等を語り、また女学生の噂をしたものだった。

当時の高校の校舎は、旧制中学校（明治四一年設立）の建物をそのまま引き継いだので、色々と普通と異なる教室があった。例えば、物理の教室は広くて実験設備を備え、また生物の教室も周りに動物の剥製等が並べてあった。この生物教室が私の一年生の時の教室でもあった。また、運動場の手前には、赤瓦の洋館風の図書館が建っており、これが更に「学び舎」に色を添えていて、私が入学を決めた原因の一つにもなったものである。現在、90周年事業の一環として、新しく鉄筋コンクリート製の同窓会会館が造られたが、従来の木造、且つ洋風の図書館とは似ても似つかないもので、何故このような平凡な建物（噂では金八千万円もかけてたという）を建てたのか不思議でしようがない。十分な時間をかけ、且つ知恵を出し合って検討の上、建築してたらと、今思うと悔しくて涙が出てくる。旧制中学校は、県下六番目の中学校として建てられたので、木造の建物であったためか、シロアリの被害を受け、そのため建て替えられたのが、今の校舎である。従前の木造校舎は、いわゆる「学び舎」というにふさわしい雰囲気があったが、現在の校舎は、平凡で、且つ無機質的であり、「学び舎」としての特色が全くないと感じるのは、私一人だけだろうか。

今の志布志高校は、旧制中学校・旧制女学校の良き伝統を受け継いだと言えず、平々凡々のままに、少子化の波に飲まれ、消えていくかと思うと心から情けなくなる。どうか志布志高校の同窓生の皆さん、良き伝統ある「学び舎」にしようではありませんか。

ご挨拶

(昭和53年卒)
松蔭会会長 樺山 弘昭



鹿児島県立志布志中学校（現在の志布志高等学校）は、明治42年（1909）に、鹿児島県内5つの県立中学校（現鶴丸高等学校、現甲南高等学校、現川内高等学校、現加治木高等学校、現川辺高等学校）に次ぐ、県内6番目で、大隅半島最初の旧制中学校として発足しています。

現在、母校の生徒数は、各学年3クラスの合計261名で、叡・志・剛の校訓のもと伝統を引き継ぎながら新たな歴史を築くべく、職員・生徒が一丸になって鋭意、精進努力をされております。

一昨年は、110周年記念事業も盛大に開催され、これまで、約2万人の卒業生を世に送り出し各界で活躍されております。

時代は、明治・大正・昭和・平成・令和と変遷しておりますが、先人の意志を受け継ぎ、志布志高校が地域の財産として愛され、誇りに思われる学校となるように皆で協力していくとともに更なる飛躍を祈念するところであります。

さて、令和3年8月7日（土）に、1年振りとなる総会を開催しました。令和3年度の事業方針として、学校支援・生徒確保の推進・会員の親睦交流・情報発信等をおかけしましたので、今後具体的な事業推進を図っていきます。

特に、会員の親睦交流では、チャリティグラウンドゴルフ等を実施して、各期の交流を深めながら、母校支援に繋げていきたいと考えております。そのために、各期代表者会を開催してまいりますのでよろしくお願いいたします。

その他、総会当日の議事の中では、先輩の皆さんそして各期の皆さんの活発な意見が出て、母校に対する想いの深さを改めて感じた一日となりました。

皆様のたくさんのご意見・アイデアをお聞きしながら松蔭会を運営してまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

来年の総会の頃は、コロナも終息し、皆様と懇親ができることを楽しみにしております。

ご挨拶

志布志高等学校 校長
國生 勝海



松蔭会の会員の皆様におかれましては、ますます御健勝のことと存じます。

今年で創立112周年を迎え、「文武両道」と「質実剛健」で育った本校卒業生は、2万人の数に迫っており、政財界や教育界、芸術・文化の分野などで、全国各地や大隅地区で、中核を担って活躍されています。校長室には、本校卒業生で、長年国会議員を務められ国務大臣にもなられた二階堂進氏が揮毫された「剛健」の書が掲げてあります。

令和2年度より、順次新制服への移行となりました。はつらつとした90名の新入生がブレザー仕様の新制服を纏って入学し、新年度がスタートしました。今後、志布志高校の新たなシンボルとなってくれたらと期待しております。

本校生は、校訓「叡・志・剛」、教育指針「Create Your Future」の下に、勉学や部活動、地域でのボランティア活動等に意欲的に楽しく取り組み、将来の礎を築いているところです。特に主体的で豊かな人間性を育成するために、アクティブラーニング型の授業の実践、ノーチャイムによる自主的および協働的態度の養成、総合的な探究の時間の学びの充実、生徒会や部活動への積極的な参加を図っています。他と協力しながら様々なことにチャレンジし、その過程で培われた力は、変化の激しい時代に対応できる基礎力になると確信しております。

「チーム志布志、一丸となり活性化」をスローガンに据えて、全職員で心一つに生徒への支援、進路実績の質的向上、生徒確保など本校の抱える課題解決に取り組んでいく所存です。

松蔭会の皆様方におかれましては、コロナ禍にあってどうか健康に留意されてお過ごしいただきますとともに、今後も志布志高校への御支援を賜りますようお願いいたします。